

第三十七協栄丸



曳船兼押船兼揚錨船 進水1995年10月

「揚錨船とは」

浚渫船、起重機船等の作業用錨の設置・移設・揚収等の作業を行う船舶。
本来の作業のほか主作業船の修理作業。補修部品の輸送、小構造物の水上架設等の作業にも使用される。

「押船とは」

はしけ、ポンツーンなど非自航運搬船や作業船の船尾に連結して一体形の船のようにして
押し進める船舶。

船首連結部には、耐波性を向上するため特殊な連結装置を有してその方式によりそれぞれ
独特の船首形状を有している。

最近では非自航起重機船、運搬船と組合せ機動性を高めるために使用されているものもある。

主要項目

船体部

全長	14.5m
L B D	12.93×5.17×2.06m
総トン数	19.0 t
速力	10.5not
定員	8名
燃料油槽容量	11KL
曳航ロープ	80φ×150m

機関・主機関

主機	新潟鉄工(株) 6NSDL-M型
	750ps×1400rpm 2基2軸
推進機	ナガシマ 1400φ×970 2基
主発電機	澤藤デンキ(株) 2.5K 2000rpm 35V-10A

甲板機器

ロープリール	KHM 1t×33/m (80φ×150m)
トーイングフック	中晃 NS10 t
アンカーウインチ	KHM 15/7.5 t×10/20m
プッシャー固定装置	高知重機 P40-150S 40 t×2基

航海計器

レーダー	電気圧手動方式及び油圧手動方式
レーダー・トランスポーター	100 t
GPSプロッター	50m
衛星イーパブ	55m/min
操舵機	70m/min